

日本木材学会抽出成分利用研究会 第2回抽出成分討論会開催報告

2019年9月6日、茨城県つくば市の森林研究・整備機構森林総合研究所において、第2回抽出成分討論会を開催いたしました。この討論会は、研究会活動の更なる活性化に向けて昨年度からはじまった討論会です。午前中は、森林総合研究所内の木材標本室や研究室の見学を行いました。木材標本室には、約8,000種の29,000個体の木材標本が集められており、その他にもさく状標本(押し葉標本)、プレパラート標本も収蔵されています。見学者は各々の研究している樹木の標本を探したり、プレパラート標本を顕微鏡で熱心に観察していました。

午後からは、森林総研フェロー大原誠資先生から「樹木抽出成分の樹木内での役割と人間生活への応用」と題して基調講演をいただきました。人間が抽出成分を日常生活に活用している実例や大原先生のこれまでの研究開発について紹介があり、とても興味深いご講演でした。続いて、森林総合研究所の先生方から「スギの生体防御物質の遺伝的基盤の解明に向けて」、「加水分解性タンニンによるユーカリのアルミニウム無毒化機構」、「樹木揮発性成分と森林害虫」に関する3件の企画公演の発表がありました。抽出成分利用研究会には所属されていないため普段聞くことができない先生方からの発表に、参加者から多くの質問が交されました。

また、「Chemical Constituents, Botanical Origin, and α -Glucosidase Inhibitory Activity of Propolis of *Tetragonula sapiens*, a Stingless Bee, in Southeast Sulawesi, Indonesia, and Their Structure-Activity Relationship」、「オオバクロモジ低極性成分の分析と生物活性」、「Grains of Paradise 種子抽出成分の配糖化と神経変性疾患に与える影響」に関する3件の口頭発表があり、その後、6件のポスター発表がありました。

本討論会の参加者は38名であり、昨年度以上に活発な討論会となったことに幹事一同、嬉しく思っています。今後とも、抽出成分について研究されている木材学会内外の先生方をお呼びし、交流できる場を提供していきたいと考えています。なお、次回の第3回抽出成分利用研究会は2020年5月16日香川大学農学部で開催を予定しており、生物系三学会(動物学会・植物学会・生態学会)中四国支部会と同時開催する方向で検討しています。

(抽出成分利用研究会代表幹事 香川大学農学部 鈴木利貞)